



Legal Seat – Helsinki, Finland

WORLD FEDERATION OF THE DEAF

WORLD ASSOCIATION OF SIGN LANGUAGE INTERPRETERS

An International Non-Governmental Organisation in official liaison with ECOSOC, UNESCO, ILO, WHO and the Council of Europe. WFD was established in Rome in 1951.

PO Box 65, 00401 Helsinki, FINLAND

www.wfdeaf.org

新型コロナウイルスのパンデミックにおける自国の手話言語による 公衆衛生情報へのアクセスを提供するためのガイドライン

(一般社団法人全国手話通訳問題研究会試訳)

世界中の7000万人以上のろう者が、新型コロナウイルスパンデミックに関する情報を
自国の手話言語によってアクセスする権利を持っている。

2020年3月18日 | 国際手話版はこちら

主要点：

- すべての状況において、**国家レベルの資格を持つプロの手話言語通訳者や翻訳者**が採用されることが非常に重要である。
- すべてのメディアで情報を入手可能にする必要がある。手話言語による情報が一部のチャンネル（例：ナローキャスト）でしか入手可能でなかったり、ウェブベースでしか提供されていなかったりする場合、ろう者はきわめて肝要な最新情報を重要な時期に見逃すリスクがある。
- 新しい発表がなされている際には、**通訳者が現場に立ち会い、画面上でよく見えるようにする必要**がある。これにより、ろう者も他の公共の人と同様に、さまざまなメディアを通じて情報にアクセスできるようになる。

本文書では、さまざまな状況で手話言語によるアクセスを提供するための好事例を説明する。

通訳付きの国の記者会見または緊急情報放送¹：

1. 手話言語通訳者は、（可能な範囲で）物理的に立ち会い、聴衆に向かって発言者の隣に立ち、映像の枠内に入っている必要がある。これにより、映像が様々なメディアを介して伝達された場合にも手話言語通訳の提供が保証される。
2. 手話言語通訳者に文字や画像などが重なることのないように注意し、フルスクリーン画像で通訳者は常に映されているべきである。
3. 放送はマルチプラットフォームでもよいが、幅広い視聴者が簡単にアクセスできるように、常に主要な公共テレビチャンネルで放送する必要がある。



スタジオでの通訳付き（スペシャル）ニュースの生放送：

1. 通訳者の配置と大きさ：
 - a. 推奨：通訳者は（クロマキーまたはグリーンスクリーン利用により）画面上に配置され、通訳者の大きさは少なくとも画面の半分でなければならない。
 - b. 代替策：通訳者を、画面上の実際の映像とは別に、画面の25%以上を占めるボックスに配置する。
2. 放送はマルチプラットフォームである必要があるが、幅広い視聴者が簡単にアクセスできるように、常に少なくとも主要な公共テレビチャンネルでも提供される必要がある。



首相および国務大臣による会見の場において

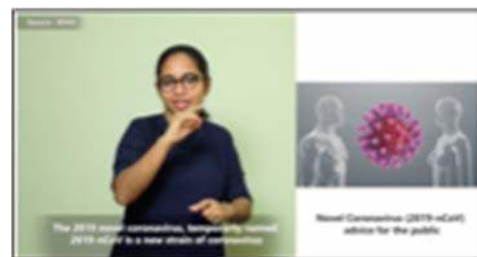
首相および国務大臣が最新情報について発表するとき、手話言語通訳者が同じ場で通訳できることはあまりない。その場合、ニュースの生放送の原則を利用し、通訳者は発言者の画面上の隣で同時に放送される必要がある。これは多くの場合、議会のウェブベースのプラットフォームを通じて放送される。



¹ 画像1：韓国 画像2：コスタリカ 画像3：英国 画像4：オーストリア 画像5及び6：英国

公共安全情報映像²：

1. 新型コロナウイルスに関する情報を自国の手話言語で取得可能にすることは公的機関の責任である。その時、できれば書面や音声で発表されたものを手話言語に翻訳するのではなく、初めから手話言語で作成されることが望ましい。
2. それらの映像を作成する際の専門知識とガイダンスについては、全国ろう協会に求めるべきである。
3. 好事例としては、ウイルスと安全対策に関する情報を自国の手話言語を母語とする者であるろう者が提示することが挙げられる。ろう専門医療機関もこれについてアドバイスを提供できる（さまざまな国の映像に関する最新情報については、wfdeaf.org/coronavirusを参照してください）。
4. これらの映像は、新型コロナウイルスに関する他の公開情報とともに、国および公衆衛生のウェブサイトで公開される必要がある。
5. 映像には、その国の言語で字幕も付ける必要がある。
6. 情報をわかりやすくするために、可能な限り視覚的情報を利用する必要がある。
7. ろう者が国または地方の保健当局に直接手話言語で、または対面式かオンラインによる緊急通訳サービスを通じて、アクセス可能な方法に関する情報を追加して、質問がある場合に問い合わせることができようにしてください。



これらのガイドラインは、新型コロナウイルスパンデミックに関する情報を広める非政府組織および国際組織にも適用するものである。自国の手話言語を最優先し、国際機関は世界に発信するため、国際手話による情報の提供をすべきである。

好事例の詳細については、以下を参照。

- [WFD position paper on Accessibility: Sign Language Interpreting and translation and technical developments](#)
アクセシビリティに関するWFD（世界ろう連盟）声明書：手話言語通訳と翻訳および技術開発
- [WASLI and WFD Guidelines Communication during natural disasters and other mass emergencies](#)
自然災害およびその他の大規模緊急事態時のコミュニケーションに関するWASLI（世界手話通訳者協会）およびWFDガイドライン
- [WFD-WASLI Joint Statement on Access to Health Services & Interpreter Occupational Health During the Coronavirus \(COVID 19\) Containment Efforts](#)
新型コロナウイルス（COVID 19）対策間の保健サービスと通訳者の労働衛生へのアクセスに関するWFD-WASLI共同声明

更新については、www.wfdeaf.org/coronavirus を参照

謝辞 これらのガイドラインは、マヤ・デ・ウィット、ジェマイナ・ネピア、ジョセフ・マーレイが、アレキサンドレ・ブロックとクリストファー・ストーンからの情報をもとに編集したものである。この資料で使用されている画像の入手を支援してくれたマヤ・デ・ウィット、ジェマイナ・ネピア、アルダ・バトーリーに感謝する。

²画像 7：インド 画像 8：ジンバブエ すべての参照画像へのリンクは、www.wfdeaf.org/coronavirus にある